



安全対策の徹底促す

緊急事故防止大会

県内で労災多発

宮城ト協

【宮城】宮城県トラック協会(須藤弘三会長)は11月28日、緊急事故防止決起大会を開き、安全対策の徹底とドライバー教育及び管理体制の強化を図り、事故撲滅を目指すことを再確認した。写真。

県内の陸運業で労働災害事故が多発しており、10月末時点で5人もの尊い命が犠牲になっている。年末年始の繁忙期に加え、積雪や凍結による道路環境の悪化が懸念されることから、事故防止対策を再徹底しようと緊急開催した。経営者と運行管理者ら250人が出席し、会場は満員となった。須藤会長は「憂慮すべき事態。適正な運行管理とドライバーの健康管理に努め、事故を無くすことが我々の責務である。輸送のプロとして、使命感を持って無事故無災害に全力で取り組もう」と呼び掛けた。宮城運輸支局の五代儀敦

支局長と宮城労働局の庭山佳宏労働基準部長がそれぞれ、運輸安全マネジメントや事業用自動車総合安全プラン2009などを説明。安全管理と指導体制の徹底を促した。

続いて、「交差点での右左折事故防止」「追突事故の防止」「飲酒、酒気帯び運転の撲滅」——などのスローガンを掲げた大会決議を採択。

この後、健康起因事故防止セミナーを開き、ヘルスケアネットワーク作本貞子副理事長が「トラック運送事業者における健康起因事故の防止対策」をテーマに講演した。(富田久男)